

2023（令和5）年度通常総会資料

（2023年4月1日～2024年3月31日）

公益社団法人 日本磁気学会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京YWCA会館 207号室

電話 (03)5281-0106, メール msj@bj.wakwak.com

<通常総会議事>

議 事

第1号議案 2023年度 事業報告に関する件

第2号議案 2023年度 収支決算報告に関する件

第3号議案 2024年度 事業計画に関する件

第4号議案 2024年度 収支予算に関する件

第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

—以上—

第1号議案 2023（令和5）年度 事業報告に関する件

（2023年4月1日～2024年3月31日）

会長・副会長のリーダーシップの下、引き続き理事会主導による学会のアクティビティ向上のための各種の施策を強力に実行した。今年度実施した主な新規事業、施策、並びに特記事項等は以下の通りである。

- ・学会コンテンツ電子化に向けたタスクフォースの活動スタート
- ・女性研究者賞（いつくしみ賞）、女性研究者奨励賞（こころざし賞）の新設
- ・ホームページ内に賛助会員提供サービスコーナーを新設
- ・INTERMAG2023（仙台）開催における共同開催組織としての活動
- ・IcAUMS 2025（沖縄）開催に向けた取り組み

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催（定款4条1号）

1. 1 学術講演会及びシンポジウム

本年度は第47回学術講演会を大阪大学（豊中キャンパス）にて現地開催した。

◎第47回学術講演会

期日：	令和5年9月27日（水）～9月29日（金）
会場：	大阪大学（豊中キャンパス）（現地開催）
実行委員長：	鈴木 義茂（大阪大学）
講演件数：	279件
セッション数：	44
参加者数：	485名

※シンポジウム一覧

- 1) “Multiscale analysis of magnetic materials: numerical electromagnetic field analysis of materials, magnetic devices, motors, and power electronics”
参加者：50名
- 2) “Optical control and time-resolved measurement of magnetic dynamics”
参加者：35名
- 3) “Advanced local probe techniques in nanoscaled magnetism”
参加者：40名
- 4) “Fusion of mechanics and spintronics”
参加者：37名

1. 2 研究会

第 242 回から第 247 回までの 6 回の研究会を、下記の通り企画・開催した。

- 1) 第 242 回研究会
「宇宙空間で使われる磁気技術」
期日：令和 5 年 5 月 23 日（火）
会場：オンライン開催（Zoom）
参加者：16 名
- 2) 第 243 回研究会／第 72 回化合物新磁性専門研究会
「ハイエントロピー機能性材料研究の最前線」
期日：令和 5 年 7 月 21 日（金）
会場：ハイブリッド開催（ワイルド御茶ノ水、Zoom）
参加者：42 名（現地：16 名，オンライン：26 名）
- 3) 第 244 回研究会／第 7 回磁気センサ専門研究会
「磁性金属の異常ホール・ネルンスト効果と磁気および熱流センサへの応用」
期日：令和 5 年 9 月 15 日（金）
会場：ハイブリッド開催（東北大学電気通信研究所ナノ・スピン総合研究棟、Zoom）
参加者：55 名（現地：22 名，オンライン：33 名）
- 4) 第 245 回研究会
「磁気応用のための新奇な微細加工技術」
期日：令和 5 年 11 月 10 日（金）
会場：ハイブリッド開催（日本大学理工学部 1 号館、Zoom）
参加者：38 名（現地：10 名，オンライン：28 名）
- 5) 第 246 回研究会
「モノづくり分野を支える磁気関連技術の新展開」
期日：令和 6 年 1 月 17 日（水）
会場：ハイブリッド開催（ワイルド御茶ノ水、Zoom）
参加者：22 名（現地 7 名 オンライン（Zoom）15 名）
- 6) 第 247 回研究会
「リサイクル技術やレアアースフリー磁石を中心とした磁石開発の進展」
期日：令和 6 年 3 月 28 日（木）
会場：ハイブリッド開催（連合会館、Zoom）
参加者：41 名（現地：12 名，オンライン（Zoom）：29 名）

1. 3 講習会、公開講座

初等磁気工学講座およびサマースクールをハイブリッド開催した。また、MSJ 講習会をオンライン開催した。

◎第 28 回初等磁気工学講座

期日：令和 5 年 5 月 30 日（火）
会場：ハイブリッド開催（連合会館、Zoom）
参加者：54 名
※一般財団法人中辻創智社を受けて実施

◎第 46 回サマースクール

期日：令和 5 年 5 月 31 日（水）～6 月 2 日（金）
会場：ハイブリッド開催（連合会館、Zoom）
参加者：48 名
※一般財団法人中辻創智社を受けて実施

◎第 4 回 MSJ 講習会 「脳・ロボット・コンピュータをつなぐ磁気センシング技術」

期日：令和 5 年 12 月 21 日（木）
会場：オンライン開催（Zoom）
参加者：26 名

◎第 29 回公開講演会「磁石の不思議な世界－聞いて、さわって、体験しよう－」

期日：令和 5 年 9 月 30 日
会場：大阪大学
参加者：64 名（保護者含む）

1. 4 専門研究会

本年度はナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会を下記の通り開催した。

1) ナノマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 96 回	令和 5 年 6 月 23 日	ハイブリッド開催 (現地：横浜国立大学)	45 名 (現地 30 名, オンライン 15 名)
第 47 回 学術講演会 シンポジウム	令和 5 年 9 月 28 日	大阪大学	40 名
第 97 回	令和 5 年 10 月 26 日, 27 日	ハイブリッド開催 (現地：新潟大学)	30 名 (現地 20 名, オンライン 10 名)
第 98 回	令和 5 年 12 月 8 日	ハイブリッド開催	50 名 (現地 15

		(現地：日本大学駿河台 キャンパスタワースコラ)	名，オンライン 35 名)
--	--	-----------------------------	------------------

2) スピントロニクス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 88 回	令和 5 年 10 月 4 日	連合会館	18 名
第 89 回	令和 5 年 9 月 29 日	大阪大学	37 名
第 90 回	令和 6 年 3 月 11 日	連合会館	31 名
第 91 回	令和 6 年 1 月 29 日 (変則的に第 90 回より 先の開催となった)	ハイブリッド開催 (現地：九州大学西新プラザ)	48 名 (現地 18 名， オンライン 30 名)

3) 化合物新磁性材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 72 回	令和 5 年 7 月 21 日	ハイブリッド開催 (現地：ワイム御茶ノ水)	42 名 (現地：16 名， オンライン：26 名)
第 73 回	令和 6 年 2 月 20 日	ハイブリッド開催 (現地：連合会館)	13 名 (現地 8 名、 オンライン 5 名)

4) 強磁場応用専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 68 回	令和 6 年 1 月 11 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学)	17 名 (現地 4 名 オンライン 13 名)
第 69 回	令和 6 年 2 月 22 日	ハイブリッド開催 (現地：京都先端科学大 学)	23 名 (現地 8 名 オンライン 15 名)
第 70 回	令和 6 年 3 月 7 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学東京プラ ザ)	40 名 (現地 12 名 オンライン 28 名)
第 71 回	令和 6 年 3 月 18 日	ハイブリッド開催 (現地：大阪大学)	14 名 (現地 5 名 オンライン 9 名)

5) 光機能磁性デバイス・材料専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第 48 回	令和 5 年 9 月 27 日	大阪大学	35 名
第 49 回	令和 6 年 1 月 25 日	ハイブリッド開催 (現地：長岡技術科学大学 東京サテライトキャンパ ス)	49 名 (現地 14 名， オンライン 35 名)

6) エネルギーマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第16回	令和5年9月27日	大阪大学	50名

7) バイオマグネティックス専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第9回	令和6年2月28日	オンライン開催	24名

8) 磁気センサ専門研究会

回数	期日	会場	参加者
第7回	令和5年9月15日	ハイブリッド開催 (現地：東北大学電気通信研究所)	55名 (現地22名, オンライン33名)
第8回	令和5年12月21日	オンライン開催	26名

1. 5 国際会議の主催、共催

本年度は、下記の国際会議を協賛した。

1) International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2023 (ISOM'23)

光メモリ・画像・計測国際シンポジウム (ISOM) 事務局
高松シンボルタワー 2023年11月19日(日)～22日(水)

1. 6 国際会議の準備

前年度から引き続き、下記の国際会議の準備を進めた。

◎INTERMAG 2023 (仙台国際センター) 2023年5月15～19日

※実行委員会(2023年4月18日、5月23日)に参加し、現地実行委員会と連携して必要な対応を進めた。

本学会会員のみならず内外の多数の磁性研究者が一堂に会し、活発な議論が行われるなど、大成功のうちに幕を閉じることができた。

最終的に、コロナ禍前に匹敵する規模である1700名程度の参加者数となった。

◎IcAUMS 2025 (沖縄コンベンションセンター)

IcAUMS 2025として2025年4月21～24日の日程で沖縄コンベンションセンターにて開催する。開催に向けて、実行委員会の発足を行い、会場やバンケット会場確保など必要な手続きを済ませた。また、沖縄観光コンベンションビューローに対してコンベンション開催支援の申請をおこなった。IcAUMS2025開催告知のWEBページを開設した。

1. 7 AUMS (Asian Union of Magnetics Societies) との連携

沖縄にて開催予定の IcAUMS2025 について、国際委員会が窓口となって AUMS Council member と今後について検討を進めた。合計 6 回の AUMS Council meeting をオンライン及びオンラインサイトで開催し、IcAUMS の準備状況の確認、開催時期、場所の決定を行った。令和 6 年 1 月から Prof. Young Keun Kim (韓国) が AUMS President となり、新体制が発足した。

◎第 34 回 AUMS Council meeting (2023 年 4 月 18 日オンライン開催)

◎第 35 回 AUMS Council meeting (2023 年 6 月 6 日オンライン開催)
IcAUMS2023 の準備状況確認

◎第 36 回 AUMS Council meeting (2023 年 8 月 13 日, インドネシア・バリ)
MSJ 選出の AUMS Council member 変更の承認

◎第 37 回 AUMS Council meeting (2023 年 10 月 18 日オンライン開催)
沖縄開催の IcAUMS2025 準備の進捗報告

◎第 38 回 AUMS Council meeting (2023 年 12 月 15 日, 中国/東莞)
次期 AUMS President の投票

◎第 39 回 AUMS Council meeting (2024 年 3 月 20 日オンライン開催)
沖縄開催の IcAUMS2025 準備の進捗報告

2. 学会誌の刊行 (定款 4 条 2 号)

Journal of the Magnetics Society of Japan (JMSJ) を 47 巻 3 号より 48 巻 2 号まで計 6 回、日本磁気学会論文特集号を 7 巻 1 号および 7 巻 2 号の計 2 回、また会報「まぐね」を 18 巻 2 号より 19 巻 1 号まで計 6 回発行した。「JMSJ」は英語論文のみの掲載とし、「日本磁気学会論文特集号」は学術講演会での講演に基づいた論文で、和文、英文両方とも掲載した。また学生の研究と論文投稿を奨励するため、これら論文誌の各号毎に MSJ 論文奨励賞授賞の選考を行った。「まぐね」は論説、解説、特集記事、連載講座など寄稿記事を中心に編集した。

2. 1 学会誌 Journal of the Magnetics Society of Japan

巻—号	発行年月日	内容 (詳細は各号の目次参照)
47-3	令和 5 年 5 月 1 日	論文 4 件、総ページ数 27
47-4	令和 5 年 7 月 1 日	論文 6 件、総ページ数 44
47-5	令和 5 年 9 月 1 日	論文 2 件、総ページ数 11
47-6	令和 5 年 11 月 1 日	論文 1 件、総ページ数 7
48-1	令和 6 年 1 月 1 日	論文 3 件、総ページ数 16

48-2	令和6年3月1日	論文4件、総ページ数 23
------	----------	---------------

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

2. 2 日本磁気学会論文特集号

Transaction of the Magnetics Society of Japan -Special Issues-

巻—号	発行年月日	内容 (詳細は各号の目次参照)
7-1	令和5年5月1日	論文19件、総ページ数 107
7-2	令和5年9月1日	論文2件、総ページ数 10

※印刷冊子ではなく、Web掲載とし、12月に1巻分をまとめたCDを配布。

2. 3 MSJ 論文奨励賞の授与

掲載論文発行月	掲載誌、受賞部門、受賞者所属および氏名
令和5年5月	<p>Journal of the Magnetics Society of Japan Vol.47, No.3 <学部等学生の部> 東北大学 蒲 宥丞 氏</p> <p>日本磁気学会論文特集号 第7巻1号 <学部等学生の部> 秋田大学 村上 知優 氏</p> <p><修士課程の部> 日本大学 小林 祐希 氏 東北大学 荻田 健徳 氏 信州大学 川田 奈波 氏 東北大学 朝雛 えみり 氏 東北大学 会津 翔太 氏</p> <p><博士課程の部> 東北大学 永井 歩美 氏 東北大学 伊藤 亘輝 氏 東北大学 櫻井 将 氏</p>
令和5年7月	<p>Journal of the Magnetics Society of Japan Vol.47, No.4 <修士課程の部> 東北学院大学 森 裕一 氏 横浜国立大学 笹岡 英将 氏</p>
令和5年9月	<p>Journal of the Magnetics Society of Japan Vol.47, No.5 該当者なし</p> <p>日本磁気学会論文特集号 第7巻2号 該当者なし</p>

令和5年11月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.47, No.6 <博士課程の部> 長岡技術科学大学 王 世浩 氏
令和6年1月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.48, No.1 <博士課程の部> 横浜国立大学 Xue Fei 氏
令和6年3月	Journal of the Magnetism Society of Japan Vol.48, No.2 <博士課程の部> 名古屋大学 小室 虎祐 氏 東北学院大学 森 裕一 氏

2. 4 学会報「まぐね」

巻一号	発行年月日	内容(詳細は各号の目次参照)
18-2	令和5年4月1日	論説「日本磁気学会から教わったこと」(中川活二) 特集「電磁界シミュレーション技術 I」 解説1件、トピックス4件 初等連載講座1件 総ページ数 60
18-3	令和5年6月1日	論説「研究の不思議な巡りあわせ」(桐野文良) 特集「シン・遷移金属超伝導体」 解説1件、トピックス3件 初等連載講座1件 総ページ数 52
18-4	令和5年8月1日	会長就任にあたって(竹村泰司) 論説「40年間に亘る磁気ヘッドの研究開発を振り返って」(岩崎仁志) 特集「電磁界シミュレーション技術 II」 トピックス3件 初等連載講座1件 総ページ数 40
18-5	令和5年10月1日	論説「基礎研究から製品化へのみちのり～経験を踏まえて～」(野々村 裕) 特集「磁気スキルミオンの発展と最新の研究動向」 解説1件、トピックス4件 総ページ数 44
18-6	令和5年12月1日	令和5年度 日本磁気学会授賞 論説「学生の皆さんへ」(小林 正) 特集「MRAM 開発の現状と将来—eMRAM から stand-alone MRAM, SOT-MRAM へ—」 解説2件、トピックス2件 初等連載講座1件

		総ページ数 64
19-1	令和6年2月1日	論説「普通に生きることの難しさ, その大切さ」(一柳優子) 特集「軟磁性材料応用デバイス開発における課題とアプローチ」 解説2件、トピックス3件 総ページ数 46

副会長(運営戦略担当)中心の広告タスクフォースとして、広告代理店と連絡を取って学会報まぐねへの広告出稿の状況把握と新規出稿社勧誘を継続実施した。その結果、残念ながら2社が広告掲載契約中止となったが、1社に新規に賛助会員になっていただいた。

Journal of the Magnetics Society of Japan、並びに日本磁気学会論文特集号に掲載される論文(令和5年1月以降)について、クリエイティブ・コモンズCC BY 4.0を付与し、論文の再利用促進を図っている。

3. 研究および調査の実施(定款4条3号)

3. 1 技術情報サービス等による情報提供

磁気の学理および応用に関する研究領域における最先端情報の調査をすすめ、技術情報サービス(No.206~218)として会員へ情報提供を行った。また、各種会議の開催案内や表彰応募などについて会員向けにメールマガジン(No.334~365)を配信するとともに、Facebookにより学術講演会ならびに各研究会に関連する情報発信サービスを行った。

3. 2 磁気研究の活性化に資する広報活動の強化

Facebookの活用を通じた戦略的な勧誘活動を通じて閲覧数を増やす方策を検討し、記事の更新頻度を高めるとともに、各研究会の紹介や報告概要の掲載、各種受賞者の紹介などコンテンツの充実を図った。

3. 3 ホームページの管理および安定運用

ホームページにおける記載内容の不備を適宜修正するとともに、各コンテンツへのアクセスビリティを改善すべくトップページの修正および技術情報サービスへフリーアクセス化を実施した。また、セキュリティレベルを維持するために、定期的にホームページのテーマセット及びプラグインのアップデートを随時実施した。

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款4条4号)

2023(令和5)年度学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞、学生講演賞、出版賞、および学会活動貢献賞の表彰を、下記の通り行った。また、業績賞受賞者に対しては、その功績を称えMSJフェロー称号の授与を行った(学会賞受賞者はフェロー称号授与済み)。

学会賞、業績賞、優秀研究賞については竹村泰司委員長・湯浅裕美副委員長、論文賞、学術奨励賞、出版賞については加藤剛志委員長、学生講演賞、学会活動貢献賞については

山田豊和委員長の体制でそれぞれ選考を担当した。

◎学会賞

- ・杉本 諭 氏 (東北大学)
「先進的プロセス開発による永久磁石材料の高性能化と応用に関する研究」

◎業績賞・フェロー

- ・水上 成美 氏 (東北大学)
「マンガン磁性合金の磁気緩和ならびにスピントロニクス応用に関する研究」

◎優秀研究賞

- ・加藤 剛志 氏 (名古屋大学)
「高機能磁性薄膜とその工学応用に関する研究」
- ・吉田 敬 氏 (九州大学)
「磁性ナノ粒子の磁気特性評価法の開発およびバイオ応用に関する研究」
- ・磯上 慎二 氏 (物質・材料研究機構)
「窒化物スピントロニクスの先駆的研究」

◎論文賞

- ・ X. Zhang, J. Xia, O. A. Tretiakov, H. T. Diep, G. Zhao, J. Yang, Y. Zhou, M. Ezawa, and X. Liu
“Current-Induced Helicity Switching of Frustrated Skyrmions on a Square-Grid Obstacle Pattern”
J. Magn. Soc. Jpn, Vol.47, 20-27 (2023).
- ・ Y. Hane and K. Nakamura
“Reluctance Network Model of IPM Motor Representing Dynamic Hysteresis Characteristics for High-Accuracy Iron Loss Calculation Considering Carrier Harmonics”
J. Magn. Soc. Jpn, Vol.47, 42-51 (2023).

◎学術奨励賞 (内山賞)

- ・岩動 大樹 氏
「単位胞解析による L10 型 FePt 合金薄膜中の磁性結晶粒への軽元素固溶の評価」
日本磁気学会論文特集号 7 巻 1 号, pp.7-10
- ・宮崎 大輝 氏
「MgO 薄膜の高速成膜に向けたホットカソード RF スパッタリング用の高熱応力耐性ターゲットの提案」
日本磁気学会論文特集号 7 巻 1 号, pp.29-33

- ・小林 祐希 氏
「アモルファス GdFe フェリ磁性合金薄膜における異常ネルンスト係数への異常ホール抵抗率の寄与」
日本磁気学会論文特集号 7 巻 1 号, pp.34-39
- ・荻田 健徳 氏
「電子機器の実回路に適応可能な高周波近傍磁界測定手法の提案」
日本磁気学会論文特集号 7 巻 1 号, pp.40-45
- ・川田 奈波 氏
「倍電流整流回路を用いた LLC 共振コンバータ用結合インダクタの作製」
日本磁気学会論文特集号 7 巻 1 号, pp.80-84
- ・伊藤 亘輝 氏
「小型 EV 用インホイール磁気ギヤード SR モータの提案」
日本磁気学会論文特集号 7 巻 1 号, pp.55-60

◎学生講演賞（櫻井講演賞）

- ・JUNG SEBIN 氏（筑波大学）
「Fe/NiO の界面における垂直磁気異方性の磁気光学カー効果を用いた測定」
講演番号第 46 回学術講演会 06pC-3
- ・小室 虎祐 氏（名古屋大学）
「逆位相で磁化変調したフィードバック型 GMR センサの作製」
講演番号第 46 回学術講演会 06pD-10
- ・赤松 昇馬 氏（東北大学）
「組成および原子規則度制御による軟磁性 FeAlSi 薄膜実現のための指針」
講演番号第 46 回学術講演会 08pC-9
- ・久田 優一 氏（名古屋大学）
「Co/Ru/Co 人工フェリ磁性体の磁化過程」
講演番号第 46 回学術講演会 06pC-4
- ・村上 善樹 氏（東京大学）
「DPC-STEM 法による磁壁幅の直接計測」
講演番号第 46 回学術講演会 06aD-4
- ・伊藤 亘輝 氏（東北大学）
「小型 EV 用インホイール磁気ギヤード SR モータの提案」
講演番号第 46 回学術講演会 08pB-9

- ・田形 翔 氏 (大阪大学)
「蛋白質 PfV 結晶中に合成した超常磁性 Co-Pt ナノ粒子の交流帯磁率」
講演番号第 46 回学術講演会 06aB-3
- ・岡田 拓 氏 (大阪大学)
「方向性電磁鋼板の振動発電特性に及ぼす大型化の効果」
講演番号第 46 回学術講演会 06aC-5
- ・船木 佑也 氏 (豊橋技術科学大学)
「Co-SiO₂ グラニューラー薄膜の光学および磁気光学特性」
講演番号第 46 回学術講演会 06pC-6

◎出版賞

- ・尾崎 公洋, 杉本 諭 監修、執筆者 50 名
「次世代永久磁石の開発最前線 -磁性の解明から構造解析, 省・脱レアアース磁石, モーター 応用まで-」
出版社: エヌ・ティー・エス
- ・佐藤 勝昭
「磁気工学超入門 -ようこそ, まぐねの国へ- (マグネティクス・イントロダクション 1)」
出版社: 共立出版

◎新技術・新製品賞

- ・本年度の該当なし

◎技術功労賞

- ・本年度の該当なし

◎学会活動貢献賞

- ・INTERMAG2023 組織委員会メンバー
高梨 弘毅 氏 ほか 32 名
「INTERMAG2023 の仙台開催を通じた磁気工学並びに関連分野への貢献」
- ・企画委員会 活動活性化タスクフォースメンバー
柴田 竜雄 氏 (TDK 株式会社)
中谷 友也 氏 (国立研究開発法人物質・材料研究機構)
大西 紘平 氏 (近畿大学)
「アフターコロナも見据えた、コロナ禍における学会活動の維持・活性化への貢献」

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款4条5号）

本年度は、下記の会合を協賛した。

1) 第39回希土類討論会

主催：日本希土類学会

場所：札幌コンベンションセンター

日程：2023年5月30日(火)～31日(水)

2) 第35回 「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム (SEAD35)

主催：日本AEM学会

場所：広島国際会議場

日程：2023年6月12日(月)～14日(水)

3) 日本金属学会オンライン教育講座「医療用金属材料の基礎」

主催：(公社)日本金属学会

場所：オンライン開催

日程：2023年5月11日(木)～12日(金)

4) 日本金属学会オンライン教育講座「弾性異方性の考え方」

主催：(公社)日本金属学会

場所：オンライン開催

日程：2023年5月25日(木)～26日(金)

5) 令和5年度年度中性子産業利用報告会

主催：J-PARCセンター、総合科学研究機構(CROSS) 中性子科学センター、中性子産業利用推進協議会、茨城県

場所：秋葉原コンベンションホール

日程：2023年7月13日(木)～14日(金)

6) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2023

主催：NPO 法人 natural science

場所：東北大学川内北キャンパス

日程：2023年7月16日(日)

7) IIP2023 情報・知能・精密機器部門講習会

主催：(一社)日本機械学会

場所：オンライン開催

日程：2023年7月25日(火)、27日(木)

8) 第51回薄膜・表面物理セミナー (2023)

主催：(公社)応用物理学会薄膜・表面物理分科会

場所：金沢商工会議所ホール (ハイブリッド開催)

日程：2023年8月7日(月)

9) 2022年電気学会産業応用部門大会

主催：(一社)電気学会

場所：名古屋工業大学

日程：2023年8月22日(火)～8月24日(木)

10) 2023年度 マイクロメカトロニクス学術講演会

主催：(一社)日本時計学会

場所：中央大学理工学部

日程：2023年9月15日(金)

11) 第66回自動制御連合講演会

主催：(公社)計測自動制御学会

場所：東北大学川内キャンパス

日程：2023年10月7日(土)～8日(日)

12) 大学院生・ポスドクのための産総研所内紹介と在職女性研究者との懇談会

主催：産業技術総合研究所

場所：オンライン開催

日程：2023年10月24日(火)、11月1日(水)

13) 日本金属学会オンライン教育講座「工業材料の応力・歪測定」

主催：(公社)日本金属学会

場所：オンライン開催

日程：2023年10月26日(金)～27日(金)

14) 第17回日本磁気科学会年会

主催：日本磁気科学会

場所：福井工業大学 福井キャンパス

日程：2023年11月8日(水)～10日(金)

15) 第25回ミレニアム・サイエンス・フォーラム

主催：ミレニアム・サイエンス・フォーラム事務局

場所：駐日英国大使館

日程：2023年11月10日(金)

16) 日本希土類学会第41回講演会

主催：日本希土類学会

場所：東京大学 HASEKO-KUMA HALL

日程：2023年11月10日(金)

17) 第33回RCJ信頼性シンポジウム

主催：(一財) 日本電子部品信頼性センター

場所：大田区産業プラザ (PIO)

日程：2023年11月9日(木)～10日(金)

18) 第32回 MAGDA コンファレンス in 金沢(MAGDA2023)

主催：日本 AEM 学会

場所：しいのき迎賓館

日程：2023年11月27日(月)～28日(火)

19) 第52回結晶成長国内会議 (JCCG-52)

主催：(公社) 日本結晶成長学会

場所：ウインクあいち

日程：2023年12月4日(月)～6日(水)

20) IIP2024 情報・知能・精密機器部門 (IIP 部門) 講演会

主催：(一社) 日本機械学会

場所：ハイブリッド (岡山大学津島キャンパス)

日程：2024年3月4日(月)～5日(火)

Ⅱ 処務の概要

1 会議

2023（令和5）年4月1日から2024（令和6）年3月31日の間に下記の会議を開催した。

1) 総会

2023年6月19日開催の通常総会にて、2022年度事業報告並びに収支決算報告、2023年度事業計画並びに収支予算、名誉会員の推薦に関する議案が審議され、原案通り可決された。

2) 顧問会

顧問会を2023年9月29日に開催した。

3) 理事会

下記期日に開催した。

2023年5月23日、2023年6月19日、2023年7月24日、2023年10月11日、
2023年12月18日、2024年3月1日

4) 諸委員会

総務委員会	1回
事務局－総務合同会議	12回
財務委員会	2回
企画委員会	7回
編集委員会	6回
広報委員会	1回
AUMS Council meeting	6回
学会賞、業績賞、優秀研究賞選考委員会	1回
論文賞、学術奨励賞（内山賞）選考委員会	1回
新技術・新製品賞、技術功労賞、学会活動貢献賞選考委員会	1回
学生講演賞選考委員会	1回
出版賞選考委員会	1回

5) その他

名誉会員懇談会および賛助会員懇談会を学術講演会開催期間中の2023年9月28日に大阪大学豊中キャンパスにて開催した。

会議の開催形態がオンラインから現地開催に移行した事により、闊達な意見交換の場が復活し、学術議論が盛況となるだけでなく、学会運営が円滑となった。一方、現地開催の増加により収支決算が厳しくなっている。この点を踏まえ、現地開催とオンライン開催のメリットを享受できるようハイブリッドを駆使するなどし、支出の削減と収入増の方策を継続検討する。

2 契約に関する事項

◎契約案件一覧

契約年月日	相手方	契約の内容	期間
令和 3 年 3 月 26 日	韓国磁気学会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 4 年 4 月 1 日	学術著作権協会	複写に関わる権利委託	5 年※
平成 4 年 12 月 2 日	台湾磁気技術協会	相互協力に関する合意	5 年※
令和 6 年 4 月 1 日	国立情報学研究所	電子図書館サービス	1 年※
令和 5 年 8 月 1 日	文野公認会計士事務所	決算の監査	1 年
令和 5 年 4 月 1 日	Mr. Michael Gallagher	日本磁気学会誌英文、リライト	1 年※
令和 5 年 4 月 19 日	(株)科学技術社	学会誌の広告に関する代理業務	1 年
令和 5 年 12 月 10 日	(株)国際文献社	日本磁気学会報印刷	1 年※
令和 6 年 3 月 12 日	東京書庫(株)	文書の保管および運搬	1 年※
令和 4 年 11 月 30 日	三菱地所リアル エステートサービス	東京 YWCA 会館 事務所の賃貸権	2 年※
令和 6 年 1 月 24 日	IEEE	Sister Society Agreement	1 年※
令和 5 年 1 月 6 日	IEEE Magnetics Society	National Society Agreement	3 年※

※は自動更新の契約

3 会員の異動状況

会員種別	員 数		
	本年度末現在 (令和 6 年 3 月 1 日現在)	前年度末現在 (令和 5 年 2 月 2 7 日現在)	増減
正会員	1, 0 7 1	1, 0 9 8	- 2 7
賛助会員	6 1	6 2	- 1
学生会員	3 6 9	3 2 3	+ 4 6
名誉会員	4 6	4 5	+ 1

4 事業報告の内容を補足する重要な事項

2023 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

**第2号議案 2023(令和5) 年度 収支決算に関する件
貸借対照表**

2024年 3月31日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	31,420	3,501	27,919
普通預金	10,423,789	15,473,940	△ 5,050,151
未収金	301,350	525,250	△ 223,900
前払金	2,033,502	1,528,492	505,010
流動資産合計	12,790,061	17,531,183	△ 4,741,122
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	2,000,000	2,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	17,009,023	0
事務所充実特定預金	146,420	146,420	0
出版広報特定預金	6,216,068	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,020,747	20,020,747	0
退職給付引当預金	6,181,212	5,519,514	661,698
特定資産合計	51,573,470	50,911,772	661,698
(3) その他固定資産			
什器備品	145,844	2	145,842
ソフトウェア	70,332	140,664	△ 70,332
電話加入権	134,625	134,625	0
敷金	1,072,500	1,072,500	0
その他固定資産合計	1,423,301	1,347,791	75,510
固定資産合計	62,996,771	62,259,563	737,208
資産合計	75,786,832	79,790,746	△ 4,003,914
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	495,549	476,756	18,793
未払消費税	466,400	0	466,400
前受金	521,000	773,300	△ 252,300
前受会費	5,840,000	6,754,000	△ 914,000
預り金	498,352	352,976	145,376
源泉所得税(給)	92,310	59,420	32,890
住民税	212,000	164,400	47,600
社会保険料	192,000	90,360	101,640
所得税(報)	2,042	38,796	△ 36,754
賞与引当金	1,283,100	972,100	311,000
流動負債合計	9,104,401	9,329,132	△ 224,731
2. 固定負債			
退職給付引当金	6,181,212	5,519,514	661,698
固定負債合計	6,181,212	5,519,514	661,698
負債合計	15,285,613	14,848,646	436,967
III 正味財産の部*			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産合計	10,247,317	10,247,317	0
(うち特定資産への充当額)	(10,247,317)	(10,247,317)	(0)
2. 一般正味財産	50,253,902	54,694,783	△ 4,440,881
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(35,144,941)	(35,144,941)	(0)
正味財産合計	60,501,219	64,942,100	△ 4,440,881
負債及び正味財産合計	75,786,832	79,790,746	△ 4,003,914

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	100	300	△ 200
基本財産運用益	100	300	△ 200
特定資産運用益	443	448	△ 5
特定資産運用益	443	448	△ 5
受取人会金	227,000	237,000	△ 10,000
受取人会金	227,000	237,000	△ 10,000
受取会費	14,508,000	15,385,500	△ 877,500
正会員費収入	9,779,000	10,283,500	△ 504,500
学生会員費収入	729,000	752,000	△ 23,000
賛助会員収入	4,000,000	4,350,000	△ 350,000
事業収益	17,048,441	16,574,367	474,074
学術講演会収入	6,469,330	4,350,420	2,118,910
研究会収入	1,523,000	1,339,400	183,600
講習会収入	2,661,100	2,599,300	61,800
岩崎コンファレンス収入	0	487,000	△ 487,000
MSJ講習会収入	745,000	1,605,000	△ 860,000
専門研究会収入	30,000	20,000	10,000
投稿料収入	2,057,000	1,837,000	220,000
その他投稿料	200,200	170,500	29,700
和文著作権料収入	201,411	226,647	△ 25,236
広告料収入	2,414,500	3,726,800	△ 1,312,300
会誌別刷り代収入	55,000	212,300	△ 157,300
40周年記念事業収入	691,900	0	691,900
受取補助金等	200,000	162,000	38,000
受取民間助成金	200,000	0	200,000
受取地方助成金	0	162,000	△ 162,000
雑収益	403,304	487,686	△ 84,382
受取利息収入	104	76	28
雑収入	403,200	487,610	△ 84,410
経常収益計	32,387,288	32,847,301	△ 460,013
(2) 経常費用			
① 事業費	32,259,181	29,051,498	3,207,683
雑誌発行費	4,379,132	4,319,423	59,709
会誌発行費(まぐね)	3,436,063	3,532,887	△ 96,824
論文発行費	854,189	705,136	149,053
電子ジャーナル発行費	88,880	81,400	7,480
ウェブ管理費	546,925	452,804	94,121
ホームページ管理費	546,925	452,804	94,121
研究発表費	8,572,193	7,327,842	1,244,351
学術講演会開催費	4,710,459	3,403,594	1,306,865
学会合費	50,000	0	50,000
研究会開催費	1,919,270	1,277,431	641,839
講習会開催費	1,494,282	1,604,745	△ 110,463
専門研究会費	280,032	146,920	133,112
岩崎コンファレンス開催費	0	307,102	△ 307,102
MSJ講習会開催費	118,150	588,050	△ 469,900
表彰・奨励費	76,299	604,914	△ 528,615
表彰費	76,299	604,914	△ 528,615
活性化費	191,703	279,029	△ 87,326
支払保険料	32,464	8,200	24,264
会議費	450,588	86,075	364,513
諸委員会費(企画・編集・表彰)	450,588	86,075	364,513
40周年記念事業費	16,464	0	16,464
給与手当	11,463,546	10,446,963	1,016,583
職員通勤交通費	180,879	140,850	40,029
福利厚生費	9,185	32,578	△ 23,393
法定福利費	1,412,313	1,191,811	220,502
什器備品費	330,842	3,908	326,934
消耗品費	60,336	52,628	7,708
印刷費	47,574	51,744	△ 4,170
通信・運搬費	276,849	262,867	13,982
会員データ管理費	277,057	277,200	△ 143
事務所費	2,665,555	2,665,555	0
賃借料	2,650,032	2,650,032	0
リース料	15,523	15,523	0
払込手数料	106,402	110,984	△ 4,582
租税公課	391,776	6,720	385,056
雑費	119,773	123,131	△ 3,358
減価償却費	95,500	59,079	36,421
退職給付費用	555,826	547,193	8,633

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費	4,568,988	4,478,194	90,794
給与手当	2,183,533	1,989,898	193,635
職員通勤交通費	34,453	26,828	7,625
福利厚生費	1,750	6,205	△ 4,455
法定福利費	269,012	227,012	42,000
什器備品費	63,018	744	62,274
消耗品費	11,493	10,024	1,469
印刷費	9,062	9,856	△ 794
通信・運搬費	52,734	50,070	2,664
会員データー管理費	52,773	52,800	△ 27
事務所費	507,725	507,725	0
賃借料	504,768	504,768	0
リース料	2,957	2,957	0
払込手数料	20,267	21,140	△ 873
諸謝金	770,000	770,000	0
租税公課	74,624	1,280	73,344
雑費	22,814	23,454	△ 640
減価償却費	18,190	11,253	6,937
会議費	371,668	665,678	△ 294,010
総会費	129,928	103,895	26,033
理事会費	214,190	49,735	164,455
諸委員会費（総務・財務・広報）	27,550	35,815	△ 8,265
選挙管理委員会	0	476,233	△ 476,233
退職給付費用	105,872	104,227	1,645
経常費用計	36,828,169	33,529,692	3,298,477
当期経常増減額	△ 4,440,881	△ 682,391	△ 3,758,490
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,440,881	△ 682,391	△ 3,758,490
一般正味財産期首残高*	54,694,783	55,377,174	△ 682,391
一般正味財産期末残高	50,253,902	54,694,783	△ 4,440,881
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高*	10,247,317	10,247,317	0
指定正味財産期末残高	10,247,317	10,247,317	0
III 正味財産期末残高	60,501,219	64,942,100	△ 4,440,881

財産目録

2024年3月31日現在

単位：円

貸借対照表科目		場所・物量・使用目的等	金額
(流動資産)			
	現金	現金手元有高	31,420
	普通預金	三菱UFJ銀行神保町支店	1,176,395
		三井住友銀行神田支店	2,843,657
		みずほ銀行神田支店	1,392,562
		ゆうちょ銀行振替口座	5,011,175
		ゆうちょ銀行通常貯金	0
	未収金	広告料、論文投稿料	301,350
	前払金	IcAUMS、第48回学術講演会関連等	2,033,502
流動資産合計			12,790,061
(固定資産)			
基本財産		定期預金	みずほ銀行神田支店
			10,000,000
		基本財産合計	10,000,000
特定資産		学術奨励特定預金(内山賞・学生講演賞)	普通預金(みずほ銀行神田支店)
			2,000,000
		国際会議準備特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)
			17,009,023
		事務所充実特定預金	定期預金(みずほ銀行神田支店)
			146,420
		出版広報特定預金	定額貯金他
			6,216,068
		萌芽的研究推進特定預金	普通預金(三井住友銀行神田支店他)
			20,020,747
		退職給付引当預金	普通預金(みずほ銀行神田支店)
			6,181,212
		特定資産合計	51,573,470
その他固定資産		什器備品	パソコン
			145,844
		ソフトウェア	会計ソフト
			70,332
		電話加入権	134,625
		敷金	東京YWCA
			1,072,500
		その他固定資産合計	1,423,301
固定資産合計			62,996,771
資産合計			75,786,832
(流動負債)			
	未払金	研究会資料送料・社会保険料他	495,549
	未払消費税		466,400
	前受金	2024年度入会金・研究会資料予約購読料他	521,000
	前受会費	2024年度会費	5,840,000
	預り金	源泉所得税、社会保険料等	498,352
	賞与引当金	2023年度職員に対する期末手当の支払いに備えたもの	1,283,100
流動負債合計			9,104,401
(固定負債)			
	退職給付引当金	職員に対するもの	6,181,212
固定負債合計			6,181,212
負債合計			15,285,613
正味財産			60,501,219

財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況はない。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

法人税法に基づく定額法を採用している。

なお、主な耐用年数は次のとおりである。

ソフトウェア 5年

(2) 引当金の計上基準

①賞与引当金

職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

②退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際会議準備特定預金	17,009,023	0	0	17,009,023
事務所充実特定預金	146,420	0	0	146,420
出版広報特定預金	6,216,068	0	0	6,216,068
萌芽的研究推進特定預金	20,020,747	0	0	20,020,747
退職給付引当特定預金	5,519,514	661,698	0	6,181,212
小 計	50,911,772	661,698	0	51,573,470
合 計	60,911,772	661,698	0	61,573,470

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小 計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
学術奨励特定預金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	0
国際会議準備特定預金	17,009,023	4,573,287	12,435,736	0
事務所充実特定預金	146,420	0	146,420	0
出版広報特定預金	6,216,068	0	6,216,068	0
萌芽的研究推進特定預金	20,020,747	4,674,030	15,346,717	0
退職給付引当特定預金	6,181,212	0	0	6,181,212
小 計	51,573,470	10,247,317	35,144,941	6,181,212
合 計	61,573,470	10,247,317	45,144,941	6,181,212

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品(PC)	121,800	121,799	1
什器備品(PC)	129,168	129,167	1
什器備品(PC)	189,200	43,358	145,842
ソフトウェア(会計ソフト)	351,660	281,328	70,332
合 計	791,828	575,652	216,176

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

補助金等の名称	交付者	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
初等磁気工学講座・サマースクール開催費助成金	中辻創智社	0	200,000	200,000	0	—
合 計		0	200,000	200,000	0	

附属明細書

1.基本財産及び特定資産の明細
財務諸表の注記に記載している。

2.引当金の明細

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	972,100	1,283,100	972,100	0	1,283,100
退職給付引当金	5,519,514	661,698	0	0	6,181,212
合 計	6,491,614	1,944,798	972,100	0	7,464,312

監査結果報告

令和6年5月28日
監事：小林 宏一郎 ㊟
監事：齋藤 秀和 ㊟



私たち監事は令和5年度における当法人の財産ならびに理事の職務の執行の状況を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、監事監査規定に則り理事および職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備につとめるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事および職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務および財産の状況を調査した。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録）並びに収支計算書について監査した。

2. 監査の結果

(1) 理事職務執行の監査結果

理事職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

(2) 財務諸表および収支計算書の監査結果

財務諸表は、当法人の令和6年3月31日現在の財政状態並びに同日に終了した令和5年度の正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しており、また収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日 公益法人等の指導監督に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に従って、当法人の令和6年3月31日に終了した令和5年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

(3) 監査人の意見

1. 理事職務執行について

各理事の役割分担は明確であり、かつ各業務の遂行状況を理事会で逐一報告し、議事録上で確認することができており、継続的にかつ十分に機能していると考えます。

2. 事業について

学術講演会や各種研究会等の定例イベント開催、学会報・学術誌の発行、国際学会開催の協力・準備、各種表彰等について、着実で安定感のある運営を実行している。また、本年度の新たな取り組みとして、学会コンテンツ電子化に向けたタスクフォース立ち上げ、女性研究者向けの新規表彰制度の創設等、会員サービス向上のための施策を積極的に実施しており高く評価できる。また、主に学生会員の大幅増加により、会員総数（正・賛助・学生・名誉会員）が14年ぶりに増加したことは特筆すべきことである。

3. 財務状況について

通年の課題である財務状況改善について、各理事による献身的な取り組みにも関わらず、400万円を超える赤字決済となった。令和5年度中の受け取りを想定していた国際会議開催による収入が次年度となった事情はあるものの、学会の定常的な運営上、極めて重く受け止める必要があり、抜本的な対策が求められる。


以上

独立監査人の監査報告書

2024年 5月15日

公益社団法人 日本磁気学会
会長 竹村 泰司 殿

文野公認会計士事務所

公認会計士 文野清正 

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益社団法人日本磁気学会の 2024 年 3 月 31 日現在の 2023 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

第3号議案 2024（令和6）年度 事業計画に関する件

（2024年4月1日～2025年3月31日）

世の流れに合わせ、アフターコロナの形態で学会運営を進めている。今年度も、オンライン会議の功罪を踏まえた上で効果的に取り入れながら、各種会合のオンライン、ハイブリッド、現地開催を進める。研究会やセミナーでは、話題性のあるテーマを扱う等、会員にとって魅力ある学会となるよう努めていく。一方で、学会の財政状況については、新たな取り組みを模索しつつ、赤字を脱却するための財務体制改善に取り組む。

本年度は特に下記の7点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、引き続き社会に貢献できる学会として邁進する。

◎学会活動のポイント

1. 新たな特任理事体制による会員サービス向上と関連学協会との連携強化
2. 持続的な学会運営のための中長期的財務計画の検討
3. 学会活動の周知強化と会員増に向けたMSJ講習会の企画、並びに実施
4. 新規タスクフォースによる学会コンテンツの電子化、並びに再販活動
5. 選考体制・過程の見直しによる表彰選考プロセスの一層の公平化・透明化
6. HP や Facebook の活用による本学会の魅力会員・非会員に伝える広報活動の強化
7. 国際会議 IcAUMS2025 の確実な企画準備

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1.1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 第47回学術講演会と同様に、参加者来場形式での開催を基本とする。
- ・ 2024年09月24日(火)から09月27日(金)まで、秋田大学 手形キャンパス(秋田県秋田市)において第48回日本磁気学会学術講演会を開催する。シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えて、ポスターセッションを併設する予定である。
- ・ フェロー制度の制定に伴い、フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

1.1.1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第48回学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1.1.2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第48回学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇

料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- ・ 第 48 回 学術講演会の概要集についても引き続きウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- ・ 第 48 回 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行うことができるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- ・ 第 48 回 学術講演会においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッション併設により、発表形式の多様化を実現し賛助会員や会員にとって参加し易くするとともに、磁気の専門家同士による活発な情報交換の場を提供して、学術講演会の価値向上に努める。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- ・ 第 48 回 学術講演会においても、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を引き続き開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- ・ 興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 6 回を目安として定期的で開催する。開催形式については、対面形式・ハイブリッド形式・オンライン形式などのさまざまな開催形式に柔軟に対応していく。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題
第 248 回	2024 年 5 月	強磁場応用
第 249 回	2024 年 7 月	未定
第 250 回	2024 年 9 月	未定
第 251 回	2024 年 11 月	未定
第 252 回	2025 年 1 月	未定
第 253 回	2025 年 3 月	未定

1. 3 講習会、公開講演会など

- ・ 「日本磁気学会 初等磁気工学講座」および「日本磁気学会 サマースクール」を、8 月初旬に開催する。電気学会など他学会との共催にすることで、参加人数の増加を期待する。
- ・ 主に小学生を対象とした、磁気に関する啓蒙的講座(公開講演会)を 1 回程度開催する。
- ・ 当学会の活動を広く知ってもらい入会を促すことに主眼を置いた「MSJ講習会」を年 2 回程度実施する。
- ・ 開催形式については、対面形式・ハイブリッド形式・オンライン形式などのさまざまな開催形式に柔軟に対応していく。

1.4 専門研究会

- ・ 専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ ナノマグネティクス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティクス専門研究会、エネルギーマグネティクス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年2回以上開催する。
- ・ 研究会への参加者を増やすための取り組みとして、研究会開催案内専用のメーリングリストを設け、運用を開始する。

1.5 岩崎コンファレンス

- ・ 第9回岩崎コンファレンスを、2024年5月17日18日の日程で連合会館(御茶ノ水)にて、「量子情報と磁気技術の織り成す未来(仮)」をテーマに開催する。大量データ処理を可能とする量子情報技術が注目を集め、2023年4月に内閣府科学技術・イノベーション推進事務局より量子未来産業創出戦略の具体的な指針が示されたところであるが、実現のためには磁気記録と量子情報、また、ハードとソフトのシームレスな協働作業が求められる。今回の岩崎コンファレンスは、量子情報技術と切り離せない磁性材料・デバイスとして、サイバー空間を司るサーバ向け大容量ハードディスク、量子情報端末の各種技術、量子計算を実現する回路、並びに関連技術について、分野を代表する講師の先生方より最先端の研究成果を紹介していただく。3回振りに現地開催形式を主体としつつも、多数参加できるようハイブリッド形式とする。

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2.1 学会誌および学会報の発行

- ・ 2024年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.48, No.3(通巻第333号)から Vol.49, No.2(通巻第338号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・ 学会報「まぐね」を Vol.19 No.2(通巻第140号)より Vol.20, No.1(通巻第145号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・ 学術講演会での講演に関する論文を集めた「日本磁気学会論文特集号(Transaction of the Magnetism Society of Japan Special Issues)」を Vol.8, No.1(通巻第15号), Vol.8, No.2(通巻第16号)の2回発行する。
- ・ 学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・ 学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

2.2 Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化と SCI 登録に向けた取り組み

- ・ 2020 年度に登録申請を行った SCI の審査に関する照会等に引き続き対応する。
- ・ Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
 - (1) 論文の査読の迅速化
迅速な論文査読を徹底する。
 - (2) Review 論文の充実
理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。
学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。
 - (3) 投稿論文の充実
専門研究会からの投稿を募る。
投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。
引用数の拡大に関する呼びかけを進める。
 - (4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS および CC BY 4.0 による再利用促進を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、ホームページの充実と Facebook の活用を通じて戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。
- ・ 技術情報サービスやメールマガジンによる情報提供により会員のメリットを高め、会員の獲得・維持を図る。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 2024 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。ただし、コロナ禍により学術講演会がオンライン開催となった場合は、表彰式の開催形態と時期について、総務と企画で検討する。
- ・ 2024 年度より、女性研究者賞(いつくしみ賞)と女性研究者奨励賞(こころざし賞)を新設する。学術界のダイバシティ促進を目的としたものである。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、引き続きフェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ 学術講演会の懇親会では、MSJ 論文奨励賞・学術奨励賞・学生講演賞・女性研究者賞(いつくしみ賞)・女性研究者奨励賞(こころざし賞)の受賞者等を懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA) に基づく相互協力を継続する。

2019年度にスタートした「IEEE Magnetics Societyの各Japan chapterの代表者」と「MSJの会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を推進する。

- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム、インドネシアと Asian Union of Magnetics Societies (AUMS)を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、AUMS カウンシルミーティングにおいて、IcAUMS2025の開催等に向けた密な情報交換を行う。更に、欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- ・ IcAUMS2025(2025年4月 沖縄コンベンションセンター)の実行委員会組織を立ち上げた。今後、AUMS や現地の大学教員と連携して、準備活動を円滑に進める。

II 会議

2024(令和 6)年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- ・ 通常総会は 2024 年 6 月 26 日に開催する。2023 年度事業報告および収支決算、2024 年度の事業計画および収支予算、名誉会員推薦などについて、審議および議決する。

2. 理事会

- ・ 2024 年度の理事会は、原則として 6 回開催する。総会への提出議案、各種規定類の改定、学術講演会の実施要項、表彰に係る選考結果、各委員会体制などについて審議を行う。
- ・ 会長のガバナンスのもと、両副会長(運営戦略担当、学術連携担当)を中心としたタスクフォース体制により、広告増を目指した活動、学会出版物の電子化、学会間連携推進等の各種重要施策の実施に向けて取り組む。
- ・ 引き続き特任理事(学術コンテンツ管理担当、学協会・学術連携担当、IcAUMS 担当)を総務委員会内に置き、会員サービス向上と内外の学協会との連携強化を図る。

3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会の期間中に顧問会、名誉会員懇談会、並びに賛助会員懇談会を開催する。
- ・ 顧問会、懇談会において収集した意見について、副会長および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。

III 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るため、財務体質の改善や会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化および各委員会の横の連携を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、課題抽出と対策を長期的に進める長期計画を策定し、その議論を通じ各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 2022 年度副会長(学術連携担当)を中心に立ち上げたコンテンツ電子化タスクフォースに基づき、新たに設定した特任理事(学術コンテンツ管理担当)を中心に、学会創立 40 周年記念 DVD、学術講演会概要集、研究会資料等のコンテンツの電子化と販売に向けた取り組みを推進する。
- ・ 副会長(運営戦略担当)をトップとする広告タスクフォースの活動を継続し、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図る。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。大型支出などに備えた定期的な見直しを計画化するため、中-長期計画を策定する。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会:

- ・ 円滑な学会運営のため、引き続き事務局と拡大定例会を毎月開催して相互の連携を深める。
- ・ 学生講演賞等の選考のあり方を見直し、分野の偏りの是正や審査委員選出プロセスの一層の透明性の向上を図る。
- ・ 名誉会員、並びに賛助会員からの申し入れを学会運営へ積極的に取り入れることにより、学会活動に対する参画を推進すると共に、会員サービス向上にも繋げる。
- ・ 2023 年度、賛助会員からの学術あるいは技術に関する情報提供を受け、学会ホームページ上で会員向けに展開する事業を開始した。2024 年度はより多くの賛助会員の参画を進める。
- ・ 特任理事(学術コンテンツ管理担当、学協会・学術連携担当、IcAUMS 担当)を総務委員会内に置き、会員サービス向上、内外の学協会との連携強化、IcAUMS2025 の開催準備を中心となって進める。

◎財務委員会:

- ・ 財務状況改善に向けた 5 年長期計画案の作成と議論。(5 年で収支ゼロ等目標設定)
 1. 財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出し
 2. 行事予定の計画反映と予算化
- ・ 会費収入増にむけた施策の提言
 1. 年会費見直し(web 充実、印刷費高騰のため)
 2. 新しい磁気技術分野の会員獲得にむけた研究会開拓活動予算の支援

3. 教育施策の内容充実への活動予算の支援
- ・ 財務改善のため収入増に向けた施策の検討と提言
 1. 委員会活動計画の収支向上に向けた提言(収益化、学術講演会会費アップなど)
 2. 各種印刷物の電子化推進(会誌の年4回など)の提言と議論

◎企画委員会:

- ・ 賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を開催・運営する。
- ・ 需要が大きく成長が見込める磁気関連分野(パワーエレクトロニクス分野や生体磁気分野など)に関する初等的入門講座(MSJ講習会)の実施を企画する。
- ・ 専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・ 学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会:

- ・ 学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ論文奨励賞の授与を継続する。
- ・ 迅速な論文査読を徹底する。

◎広報委員会:

- ・ ホームページの充実と Facebook の活用を通じて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・ ホームページ上のコンテンツを充実とさせるとともに体裁等の見直しにより各コンテンツへのアクセス性向上を図る。
- ・ メールマガジンを随時発行し、各種研究会の開催情報や学会誌情報など、有用な情報をタイムリーに会員に提供する。
- ・ 会員のメリットを高めるため、技術情報サービスを定期的に発行し、磁気に関する最新の技術情報を会員に提供する。
- ・ 学会パンフレットの改定を行い、配布することで会員・賛助会員の誘致活動を推進する。

◎国際委員会:

- ・ 本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・ 学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。

第4号議案 2024(令和6)年度 収支予算に関する件
(2024年4月1日～2025年3月31日)

単位:円

科目	2023年度	2024年度	増減(2024-2023)	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				配賦比率70:30(使用割合)
(1) 経常収益				
基本財産運用益	500	500	0	
特定資産運用益	500	500	0	
受取会費	14,700,000	14,200,000	△ 500,000	
入会金収入	200,000	200,000	0	
正会員会費収入	9,500,000			
学生会員会費収入	700,000			
賛助会員会費収入	4,300,000			
事業収入	23,560,000	24,260,000	700,000	
学術講演会収入	7,200,000	7,200,000	0	
研究会収入	2,000,000	2,200,000	200,000	MSJ若手交流会を企画予定のため
岩崎コンファレンス収入	0	500,000	500,000	2024年度 岩崎コンファレンス開催
講習会収入	2,500,000	2,500,000	0	
投稿料収入	2,860,000	2,860,000	0	55本×5ページ(4頁まで40,000円. 追加12,000円/頁)
著作権料収入	0	0	0	
広告料収入	3,000,000	3,000,000	0	
Intermag開催収入*	6,000,000	6,000,000	0	2023年度予算に組み入れる予定のものを2024年度に繰り延べ
雑収入	600,000	300,100	△ 299,900	図書館等の購読会員、バックナンバー販売
経常収益計	38,861,000	38,761,100	△ 99,900	
(2) 経常費用				
① 事業費	27,929,259	30,576,179	2,646,920	
雑誌発行費	4,770,000	5,040,000	270,000	
会報発行支出(まぐね)	4,000,000	4,120,000	120,000	
論文発行費	700,000	800,000	100,000	
電子ジャーナル	70,000	120,000	50,000	
ウェブ管理費	412,000	412,000	0	
ホームページ管理費	412,000	412,000	0	
研究発表費	8,100,000	9,000,000	900,000	
学術講演会開催	4,000,000	4,000,000	0	
学術会合費	300,000	0	△ 300,000	
研究会開催	1,500,000	2,200,000	700,000	MSJ若手交流会を企画予定のため
講習会開催	2,000,000	2,000,000	0	
岩崎コンファレンス開催	0	500,000	500,000	2024年度 岩崎コンファレンス開催
専門研究会開催	300,000	300,000	0	
表彰・奨励費	300,000	200,000	△ 100,000	
表彰費	300,000	200,000	△ 100,000	
活性化費	150,000	150,000	0	
会議費	1,000,000	900,000	△ 100,000	
諸委員会費	1,000,000	900,000	△ 100,000	編集委員会会議費見直し
給与手当	7,840,000	8,764,000	924,000	
福利厚生費	957,600	1,169,000	211,400	
職員通勤交通費	126,000	210,000	84,000	
退職給付引当費用	463,189	528,009	64,820	
減価償却費	49,000	49,000	0	
賞与引当費用	680,470	898,170	217,700	
事務所費	2,226,000	2,240,000	14,000	
雑費	140,000	140,000	0	
支払保険料	50,000	50,000	0	
その他費用	665,000	826,000	161,000	

科目	2023年度	2024年度	増減(2024-2023)	備考
②管理費	7,084,539	7,993,220	908,681	
給与手当	3,360,000	3,756,000	396,000	
福利厚生費	410,400	501,000	90,600	
職員通勤交通費	54,000	90,000	36,000	
通信・運搬費	81,000	90,000	9,000	
消耗品費	30,000	30,000	0	
印刷費	9,000	59,000	50,000	学会パンフレット改定に伴う印刷費(300部) ¥50,000-
事務所費	954,000	960,000	6,000	
賃貸料	936,000	936,000	0	
リース料	6,000	6,000	0	
在宅環境費	12,000	18,000	6,000	
諸謝金	770,000	770,000	0	
什器備品費	15,000	15,000	0	
租税公課	90,000	150,000	60,000	2021年度実績金額と同程度
雑費	60,000	60,000	0	
払込手数料	60,000	60,000	0	
会議費	350,000	350,000	0	
総会費	150,000	150,000	0	
理事会費	200,000	200,000	0	
諸委員会費	0	0	0	
選挙管理委員費	0	0	0	2023年度 選挙無し
ウェブ管理費	330,000	470,000	140,000	契約プラン変更
会員データ管理費	330,000	470,000	140,000	
退職給付引当費用	198,509	226,290	27,781	
減価償却費	21,000	21,000	0	
什器備品減価償却費	0	0	0	
ソフトウェア減価償却費	21,000	21,000	0	
賞与引当金費用	291,630	384,930	93,300	
経常費用計	35,013,798	38,569,399	3,555,601	
当期経常増減額	3,847,202	191,701	△ 3,655,501	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	3,847,202	191,701	△ 3,655,501	
一般正味財産期首残高	16,564,697	20,411,899	3,847,202	
一般正味財産期末残高	20,411,899	20,603,600	191,701	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	11,000,000	11,000,000	0	
指定正味財産期末残高	11,000,000	11,000,000	0	
III 正味財産期末残高	31,411,899	31,603,600	191,701	

*Intermag開催収入のうち、その一部を国際会議準備特定預金、事務所充実特定預金へ組み入れる。

2. 資金調達及び設備投資の見込みについて

(2024年4月1日～2025年3月31日)

期中に重要な資金調達等はありません。

第5号議案 名誉会員の推薦に関する件

下記の方を名誉会員候補として総会に上程することが、令和6年5月27日に開催された理事会において承認されました。

下記の通り、名誉会員候補者として推薦します。

候補者名（年齢※）	生年月日	推薦基準
高梨 弘毅 氏（65）	1958. 6. 20	第5条 2-1）、2-3）
杉本 諭 氏（65）	1958. 12. 9	第5条 2-1）、2-3）
神保 睦子 氏（70）	1953. 8. 23	第5条 2-2）
本蔵 義信 氏（73）	1950. 4. 12	第5条 2-2）、2-4）

（※ 2024年4月1日時点の年齢）

会員規定第5条（名誉会員の資格）

2 理事会における名誉会員の推薦基準は下記のとおりとする。

- 1) 前または元会長で、65歳以上の会員
- 2) 前または元副会長で、70歳以上の会員
- 3) 学会賞受賞者で、65歳以上の会員
- 4) 業績賞受賞者で、70歳以上の会員
- 5) 磁気分野における業績で文化勲章または文化功労者の顕彰を授けられた会員
- 6) 磁気分野で学士院賞等を授賞し、本学会に功績顕著な者で、65歳以上の会員
- 7) 前記の1)～6)項と同等あるいはこれに準ずる業績および功績のある者

2023（令和5）年度通常総会資料

2024年6月26日発行

発行所 公益社団法人 日本磁気学会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA会館207号室

電話：(03) 5281-0106